

蛇紋岩にふとん掛けて（五）

「警察に届けましょうよ。うふふ」本気で言っているのではないのは明らかだ。

「誰が」まさか俺に行けと言ってるのか。

無言の笑顔で指示された。いやmazui。ただの第二発見者の俺に、何か全責任を擦り付けられた感じがする。返答すればするほど、その感覚がますます強くなる。

「どうやって」このどつぼから早く抜け出さなければ、と思えば思うほどまた嵌る。

「うふふ」考えろってか。ムズカシイ。

「家に得体の知れない変な岩か石があるので、見に来てほしい」って言うのか。

「何か投石されたのですか。人的・物的被害はありましたか」と問われると返答に困る。

「被害が無いのに訴えられても取扱えないし、公務の迷惑になります」と返されると、もうどうしようもない。その上、

「おたく頭大丈夫ですか」と言われそうだし、

「警察でなく、病院で診てもらったら」と追い払われるに違いない。

「説明できん」結論が出た。こんな不思議なことは誰にも信じてもらえない。自分でも。

「ねえ。よもたん。あの警察に行行ってよ。よもたん一緒に行ってくれるか」

よもたん返事に困って、こちら（ダイニング）側からあちら（リビング）側にゆっくり歩いて逃げ出した。なんとその際、この岩石にシッポをさりと擦り付けた。あれー。嫁さんと目が合った。ビックリ仰天。あんぐり口を開け、お互いに目を丸くした。

被害も全くなく、警察に届ける理由も全く見つからないから、嫁さんはもう言わなくなったし、邪魔だとも言わなくなった。そのものの存在はあるし、ハッキリ見えてるのだが気にも留めなくなってきた。もう家の本体として同化してしまったようだ。

それでも、何でこれがここにあるのかは、今でも不思議に思っている。それは嫁さんも俺も同じだ。もしかして、（猫の）よもたんも同じかもしれない。

近頃、よもたんの抜け毛が激しい。これは飼い主（男）に似た所為ではなく、暖かくなって冬毛が抜ける所為。なぜなら飼い主（男）の抜け毛は止まりつつ・・・（涙）。したがって、この時期、毎日掃除機掛けをやらされる。これは自主的にやるのではなく、飼い主（女）に言われてやらされる。従わないと食事（飲酒）制限の罰が来る。

やってる（やられている）最中に気付いたが、掃除機のコードがその岩石に絡む。もちろん、岩石が掃除機のコードに絡むのではなく、掃除機のコードが必ず岩石に絡む。コードが自ら岩石に擦り寄るような気がしてならない。そういえば、よもたんもこの岩石へのスリスリが増えてきたような気がする。惹きつける何かを醸し出しているのか。